

2009年度の放射線検査室のスタッフは、診療放射線技師4名であった。主な業務は一般撮影、造影透視、CT、MRI、骨密度測定、乳房撮影で、前年度に引き続き宇城市MRI脳検診の受け入れを行った。

また電子カルテの稼働とフィルムレスの運用も始まり、変革の一年であった。

### 1. フィルムレス化

電子カルテのフル稼働に伴うオーダーリングの導入に続き、2009年7月より新しいPACS (Picture Archiving and Communication System) が稼働し、院内画像配信が可能となり、フィルムレス (マンモグラフィーを除き) での画像診断がスタートした。

これまでのフィルムによる運用に比べ、フィルムの管理業務や保管場所の確保、フィルムの搬送が不要となり、業務の効率化が図られ、患者満足度の向上や、院内他部署へのサービスを充実させることができた。

また画像の整合性 (検像) と画質の監査を徹底することにより、正確で安全なフィルムレスの運用が行われていると思う。

2010年度も新たなニーズに対応できるよう更なる知識の習得に努めていきたい。

### 2. 能力向上

2009年度も個人の能力向上を目的に、教育プログラムに基づいて部内勉強会を開催し、院内外の研修会等へも積極的に参加した。

特に脳神経外科領域での知識や技術の習熟に努め、診断能の高い画像を提供することができた。

### 3. MRI脳検診

2009年度は211名の受診者を受け入れた。

安全かつ精度の高い検査の提供を目的に、検査前にチェックリストと問診票で二重のチェックを徹底し事故防止に努め、問題なく検診業務を遂行することができた。

2010度も引き続き宇城市MRI脳検診を受け入れ、また新たに開設された脳ドックを通して、機器の有効利用と安心して生活できる地域創りに貢献していきたい。

	件数
2009	211
2008	226
2007	650
2006	1,000
2005 (初年度)	800

### 4. 遠隔画像診断

PACSの導入に伴い画像転送システムの変更があったが、遠隔画像診断は、例年通り済生会熊本病院画像診断センターの強力なバックアップの下に順調に行うことができた。また遠隔診断対象症例を通して画像診断力の向上に努めた。

最後に2009年度は、新たなモダリティの知識、技術を習得し、医療技術者としてのスキルアップを目指して、スタッフ一丸となって取り組んでいきたい。